

経済・経営・商学 法学部 経済学 法学部 政治学 法学部 社会学部 社会学部

解答紙

(4枚のうち1枚目)

I (60点)

問1	現代のニュースで取り上げられて いる「依存」では、依存先の選択肢が 狭く限定されたものであり、そこで の人々は与えられた状況に一方的に 身を任せるしかないから。
問2	① エ ② カ ③ ウ
問3	外部の者が援助される者に生活向上のために資源を直接 与え依存関係を生み出すのではなく、彼らが自立できる ように生活向上のために役に立つ方法を伝授すること。
問4	個人の自由意思を重んじ、競争や自立が強調される考え 方が近代以降の社会において広まることは、人と人の依 存関係、組織と国家の依存関係、国家同士の依存関係と いう依存関係の組み合わせと不可分であるということ。
問5	統治する者／される者という二項対立的なあり方から生 じるものではなく、無名の人々がお互いの関係性を組み 上げていくことで生じるものと見ることが出来る。
問6	社会を表面的に見て個人の自立や自己と他者の違いを強 調する近代個人主義を相対化し、社会に本質的に備わる 重層的な相互依存関係に思いを致し、取り返しのつかな い争いへと向かわせる依存関係を事前に回避できる力。

採点

採点欄

解答紙

(4枚のうち2枚目)

II (60点)

問1	<p>集団のメンバーの役割分担に基づき密な協力をを行うという狩猟採集時代の集団環境が、自己肯定感や承認欲求や達成感や満足感を人々の心に生じさせていったということ。</p>
問2	<p>「仕事を担当する能力はいまひとつだ」と当人がうすうす思うと同時に、自分は出来るという漠然とした信念を持ちつつ「担当できる」と意欲的にアピールし、また周りの人々も「そんなに言うのなら」と“フエイク”にだまされたつもりになって任せてみるという条件。</p>
問3	<p>長老からの励ましの言葉に共感し、自信が持てるようになり、協力集団形成に成功し、さらに自己を鼓舞して未知の仕事でも率先して挑戦できるほどの自己肯定感を高く維持できた背景には、素質があることの根拠がない状態でも自分の素質を心から信じるということがあった。</p>
問4	<p>協力集団の中で成長し自己肯定感や承認欲求を抱くようになる人々は、自分について否定的な要素を問う質問に対しては、自分には否定的な要素があると思いつつも、その質問を否定することが、平均よりも多くなる。</p>
問5	<p>狩猟採集時代のような密な協力集団が希薄になった、お金を稼ぐことが個人的な営みになっており周囲の人々との競争関係が生じやすい現代社会では、自己肯定感を高めてアピールし、周囲の承認を得るという一連の活動が一生を通じての仕事上の活動の原理となっているという理由。</p>
問6	<p>生まれ育った協力集団への帰属が希薄となり、複数の集団に所属していろいろな人々と関わる生活が奨励される現代社会で、それらの所属集団へのアピール材料であるアイデンティティの確立を目指すと、所属する集団ごとに自分らしさをその都度作らねばならず、一貫した自分らしさを持つてなくなるから。</p>

採点

解答紙

(4枚のうち3枚目)

三 (40点)

問1	① 雪のせいで何もすることがなく手持ちぶさただったので
	② 為正のところへやって来ましたので
	③ ほうびとして与えた
問2	「ならむ」の「らむ」はう行四段活用動詞「なる」の未然形活用語尾の「ら」に推量の助動詞「む」の終止形がついたもの。「すらむ」の「らむ」は現在推量の助動詞「らむ」の連体形。
問3	雪に埋もれる山の景色を、生駒山の名の「駒」にちなんで葦毛の馬に見立てた。
問4	雪が降ると、雪間に山肌が交じり、白毛に黒などの毛が交じった葦毛の馬のように見える生駒山だ
問5	幸文太の、わざと高く咳払いをし、人より目立つように前に出てきて、自らが考えた下の句を披露したそうにする様子。
問6	重之の句にふさわしい下の句をなかなか思いつかず苦労している間に、幸文太が先に句をつけそうだったので、それを制したが、句をつけられないまま時間がたつたため、困り果てて、幸文太が句を披露することを認めた。
問7	ウ → イ → エ → ア

採点

